

自民党の危機と民主政治の行方

北海道大学名誉教授、法政大学法学部教授 山口二郎

- *戦後日本政治の問題点について
- *自民党右傾化を生んだ社会党の歩み寄り
- *小泉改革とは何だったのか
- *民主党政権が短命だった理由
- *安倍政権と「家産制国家への逆行」
- *小選挙区制への改革は成功したのか
- *安倍政権を支えた民意について
- *支持率低迷続く岸田政権の行方
- *政権交代可能な野党を作れるか
- *求められる教育理念の再構築



山縣 今日山口二郎先生をお招きしました。

先生は1981年に東大法学部を卒業されまして、北海道大学の教授として活躍され、2014年に法政大学法学部教授に転じられていらっしゃいます。その間、オックスフォード大学で客員研究員をされたり、パリの国立政治学院で客員教授をされたりという海外でのご経験もあります。

実は2002年4月から『週刊東洋経済』の「フォーカス政治」という2ページのコラムがありまして、政治に関する専門家の方々に輪番で書いていただいているんですけども、この欄を22年間書いていただいているんですけども、私も先生は何回かお呼びしていると思っただけですけれども、実は今回初めてということ

で意外だなと思っっている次第であります。

昨年、『民主主義へのオデッセイ』という本をお書きになりました。岩波書店から発刊されています。先生の一つの集大成の厚い本ですけども、今日は岩波書店さんが見えなくなって、経済倶楽部だけということと特別な価格も出していただきましたので、よろしければお帰りに見ていただければと思います。

それでは先生、今日はよろしく願います。（拍手）

戦後日本政治の問題点について

山口 皆さんこんにちは。ご紹介いただきました山口でございます。

私の専門は政治学ですが、最初に研究したの